

文化は心のエネルギー



岡崎文化協会 機関誌『岡崎文化』
編集局長 鶴田 紀美子 氏

教育随想



令和6年4月1日

4月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎文化協会 機関誌『岡崎文化』 編集局長 鶴田紀美子 氏	
この人に聞く……………	2
あいちの山里アントレワーク実践者 春日井雅子 氏	
羅針盤……………	2
竜海中学校 校長 児玉 洋行	
ふれあい……………	3
井田小学校 教諭 荒河 麻紀	
特集……………	4
令和6年度 岡崎の教育	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
就学時健診(昭和45年)	
この本を……………	8

岡崎市には、市民文化の向上を期する「岡崎文化協会」(以降「文協」)があります。

文協は、昭和二十一年二月三日、八十二名で発足するも、三十年頃に歩みを止めてしまいました。しかし、四十六年半ば、市民運動で気運が高まり、三年間の準備期間を経て、五十年十二月五日、加盟八十八団体(最高時は百八十団体、現在六十四団体)で始動されました。

文協主催の催しも当初は数多く、芸能祭、手芸展、民謡まつり、吟道祭等々、九部門を開催。現在は、芸能祭・文化祭・美術展の三部門が各部ごとに市民に親しまれる事業を開催しています。また、次世代へ文化を広め、繋げる活動として、小中学生を対象とした「体験学習指導者派遣事業」にも取り組んでいます

文協は、年に一度、機関誌を発刊

しています。会発足の三年後となる、五十三年十一月、岡崎市花に因んだ「藤華」、六号からは現在の名称である『岡崎文化』を発刊しています。市内各小中学校にも寄贈させていただいています。

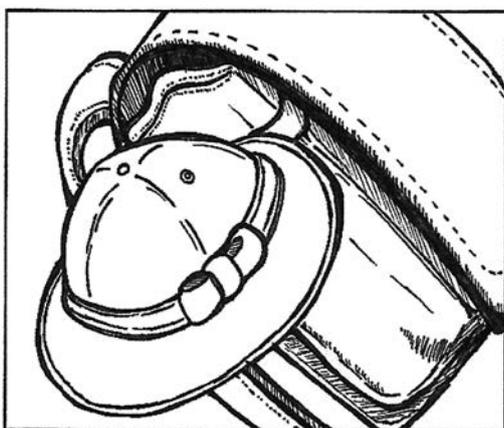
機関誌は、カラーグラビアの岡崎名所紹介、各団体の横顔・行事・研さんの成果記録、会員による座談会、先人への取材の「人士録」、また、若い世代に岡崎の文化への興味・関心をと、「きらり若人」「まんがで読む三河武士列伝」「この人に聞く」等々を掲載。機関誌は、会員相互の交流、認識を深める役割はもとより、会員以外、市外の人々にも文化活動の感動を伝える一助とする使命があります。文化の輪を広げ、質を高めるものでありたいと願って、編集に取り組んでいます。

戦禍や災害時には「文化」は第一

義ではないけれど、生きていく心のエネルギーは、文化・芸術・スポーツであることは実証済みです。

それゆえに子どもの頃からの授業や部活動、習い事での体験は、その後の心豊かな人生に繋がりが、その活躍は、岡崎の文化を推進していく力ともなることと確信しています。

(つるたきみこ)





額田のよさを感じて 額田のよさを発信する

あいちの山里アントレワーク実践者
春日井 雅子氏

昨年、額田地域の古民家に移住。三河山間部の地域課題の解決に挑戦する、「あいちの山里アントレワーク」実践者として、地域内外の人が集い、楽しめる交流の場作りに取り組んでいる。「アントレワーク」とは「アントレプレナー」＝起業家」と「ワーク」＝仕事を組み合わせた造語である。なぜ、額田地域の古民家に店を構えたのですか

街中で、県内唯一のクラフト用の紙バンド専門店を開き、営んできました。クラフト体験や音楽活動ができる、広い店舗を探していたところ、額田地域で店を営む知人から空き家の紹介を受けました。知人が取り組んでいる地域内外の人と人をつなぐ活動にも興味があり、市主催の空き家ツアーに参加したのです。そこで築百二十年の歴史ある古民家に惹かれました。地元の方から愛され

てきた屋敷であり、「人が集う場所にしてほしい」という願いが込められていました。このような願いを受け継いで、地元の方も街の方も利用できて、楽しめる場所にしたと思います。今までの紙バンドクラフトや音楽演奏に加え、飲食や体験、宿泊もできる新たな店舗を構えました。

―移住して感じたことは―

移住に際して、突然やってきた私たちが受け入れてもらえるかという不安がありました。地元の方々が古民家の改修工事に協力してくださったり、地域の風習を教えてくださいました。私たちが温かく迎えて、応援してくれる気持ち伝わって来ました。また、学校では保護者も意見を出し、力を合わせていること、運動会や敬老会などの行事は地域の方々が集う交流の場でもあることも知りました。一方で、全く人通りがないことに驚きました。過疎化、地域の存続等の課題を抱えた土地です。なんとか、私たちから地域を盛り上げるようにしていきたい。この土地の歴史や風習などを学んで生かしたい。街から来た私だから気づく、地域のよさを生かしたい。こうという思いがさらに募りました。

―地域のよさを生かすためには―

より多くの人が訪れることで地域は活気づきます。そのためには、地域のよさを発信することが必要です。そこで、地域のものや人を生かした催しを考えました。古民家で、原風景の美しさを体験するお月見の会や、地元の方を講師に招き、稲作のわらを利用した、しめ縄作りを行いました。

た。また、地域の「ぬかたふるさとまつり」では、クラフト体験ができる店を出しました。訪れた人とじっくりかかわり、人間関係を構築できるように努めています。多くの方が時間と距離を気にせず、行きたくないとところになるよう、どう発信できるのか、知恵を絞っています。

―今後の目標を教えてください―

この地域には、切山の杉や矢作川・男川・豊川の分水嶺など、街の方に訪れてほしいと思う場所が多くあります。「ささゆりの里」は保存している方がみえますが、あまり知られていません。「ささゆり祭り」を立ち上げ、みんなで地域を盛り上げていきたいと思っています。

また、地域を生かした農泊事業に挑戦しようと思います。額田地域には歴史と伝統のある酒蔵やお茶問屋などがあります。例えば、宿泊者に茶畑でのお茶摘みを体験していただくこともおもしろいと思うのです。こうした体験や発信を通して、額田地域に興味をもち、訪れる方や移住者が増え、地域課題である過疎化や小学校の存続の課題解決の一助になればと考えています。

今後も地域のよさを発見し続け、地域資源や地域の方々とのつながりを大切にして、新しい発想で発信できればと思います。



氏名 かがい まさこ
住所 岡崎市 南大須町



未来を担う子供たちへ

竜海中学校

校長 児玉 洋行

「子供は、やがて大人になる。そして、社会を担う一人となる」。年齢を積み重ねるに従い、そんな当たり前なことを感じるようになってきた。例えば、「先生」と懐かしそうに、呼び止められたとき。大人になり、立派に親の務めを果たしている姿や自分の仕事に誇りをもって働く姿などに触れたとき。嬉しさとともに、教師として未熟であった若きころを振り返り、よい教師であっただろうかと自問する。どの教師も、目の前の子供たちに一生懸命になっている日常であるが、その子供たちは、いつまでも子供ではない。

私が若いころと比べ、現代社会は様々な事情から生きづらさを感じている子供が多くなったように感じる。国が、こども家庭庁を設立した背景には、そういった子供を取り巻く



届け、僕の思い

井田小学校

教諭 荒河 麻紀

桜の花が散り終えた昨年の四月。「Aは学校でみんなと話したいのです。でもそれができないから苦しんでいます」と、Aの母から、Aの胸の内を教えてもらった。Aは、不安感が強いので、学校で言葉を発することができないと、前担任からも聞いていた。毎朝「おはよう」という声はなく、無言だが、私を見てお辞儀を欠かさず行う。その姿からは、友達や先生に気持ちを伝えたいという、Aの強い気持ちが感じられた。

五月。体育のドッジボールの授業で、Aは友達が投げたボールを取れず、何とか取りたいという悔しさからか、怒りと悲しみが湧き上がり、動けなくなってしまう。私は「胸

の前でぎゅっとするといいよ」と声をかけ、Aとしばらくキャッチボールをした。私がそっと投げると、Aはボールを胸と腕でぎゅっと受け止めた。「いいね。ぎゅっとだよ」と声をかけながら何度も繰り返すと、Aはこつをつかみ、上手に取れるようになった。笑顔にもなった。そこで、「みんなとやってみようか」と伝えようと、Aはゆっくりと立ち上がった。Aがもどり、ドッジボールが再開された。友達がAに向かってボールを投げた。私は、はっとした。投げたボールは予想を超えるスピードだったからだ。しかし、ボールはAの胸と腕の間にしっかりと挟まった。Aは目を丸くしながら、無言で私を見た。級友や先生から大きな拍手が湧き上がる。私たちは二人で握手をしながら喜んだ。言葉はなかったが、みんなに囲まれるAがいた。

九月。Aは休み時間になると、友達とドッジボールをするようになっていた。ある日、仲良しのBが「Aが『にゃあ』って話してきたよ」と教えてくれた。私は驚きを隠せず、「先生も聞いてみたいな」と、Aに話しかけた。Aは、小さくとても可



愛らしい声で「にゃあ」と言った。その声から恥ずかしさと同時に友達と関わることのうれしさも感じることもできた。「ネコそっくりだね、かわいいね」と話すと、教室中が笑顔であふれた。級友も真似をするようになり、しばらく教室は「にゃあ」で自分の思いを伝えることができた。ネコだらけの幸せな部屋となった。

その後、短いフリーズでなら友達とコミュニケーションを取ることできるようになったAは、友達と笑顔で笑い合う場面も増えた。「友達に思いを伝えたい」というAの願いは、実を結ぼうとしている。

様々な社会背景もあるのだろう。私も、子供が生きづらさを感じる事案を見聞きするたびに、いつのころからか、改めて、「学校とは」と自問するようになった。もちろん、法律的な解は存在するのだろうが、教師一人一人が自問自答すべきことだと思っている。そして、教師それぞれの教育理念のもと、その解はいくつもあるのだろうと思っている。

私は、入学式の際に、以下のことを必ず式辞に込める。「学校は、仲間と学び合う日々を積み重ねることで、【自分に自信がもてる場所】、【自分と同様、仲間も大切な命をもつ存在だと気づく場所】、【自分の将来へ夢を膨らますことができる場所】、【未来社会への期待を抱くことができる場所】でありたい」と。これが、私が自問自答した解であり、私の学校経営の根幹でもある。

校長という立場をいただき、教室で大勢の子供たちを前にして、直接話す機会は少なくなった。しかし、子供たちに伝えたいことは山ほどある。一番は、「みんなの将来は、きっと楽しいことが待っている。みんなが創る未来社会を楽しみにしている。そして、大人にとって、みんなの存在自体が夢である」ということだ。



▲心理的安全性を確保したチームでの協働的な学び（北中学校）

岡崎の教師として

何度も指導書を見返し、明日の授業準備をする「先生」がいる。

子供が浮かぬ顔をしていれば、すぐに駆け寄り声をかける「先生」がいる。休み時間になれば、子供たちと運動場を駆け回る「先生」がいる。

子供の欠席が続けば、心配になって顔を見に行く「先生」がいる。

私たち教師は、子供たちにとって保護者の次に多くの時間を共に過ごす

「大人」である。ゆえに、私たち教師が子供に与える影響は大きい。岡崎には、そのことを肝に銘じ、常に「子供ファースト」の精神で教育活動に携わる多くの教師がいる。だからこそ、質の高い教育を堅持できている。

学校は、すべての子供たちにとって「居場所」とならなければならない。そのために、私たちは子供たちを取り巻く教育環境を顧慮し、誰一人取り残さない教育を目指し、常に研鑽に努め、自身の資質・能力の向上を図っていかなければならない。そして、子供たちの幸せをひたすら願い、教育に情熱を注げる教師でありたい。

岡崎の教育が目指すもの

教育の目的は、教育基本法第一条にあるように「人格の完成」である。さらに同法第二条には、「教育の目標」として「幅広い知識と教養を身に付け、心理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」とある。学校教育に求められているものは、子供が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生

きぬくための基盤となる能力を育成すること、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。その原点には教師の「子供の幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならない。

「教育こそが未来へのパスポート」という言葉がある。教師としての使命感をもち、最愛の教え子たちを夢ある未来へ導くため、信頼される教育の創造を目指したい。

指導の重点として、三点を示す。

○学ぶ楽しさを実感し、深く考え、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進

○命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進

○体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

岡崎の教育 三つの改革

一つ目は、「学び方改革」である。「次期学習指導要領等に向けた中央教育審議会での審議のまとめ」によると、改訂の基本方針は、「将来の予測が難しい社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現を目指す」となっている。また、「社会において、自立的に生きるために必要な『生きる力』の育成を教育課程にどうつなげるのが重要である」ともされている。「生きる力」の具体として三点ある。①生きて働く「知識・技能」の習得②未知の状況にも対応で



▲教師の力量向上への取組(教師力アップセミナー【基礎編】国語)



▲ICTを活用した、思考の共有や整理、可視化(六ツ美北部小学校)

きる「思考力・判断力・表現力等」の育成③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」さらには、子供たちが「どのような学ぶか」に着目して、学びの質を高めていくためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブラーニング」の視点から授業改善の取組を活性化していくことが必要であるとされている。

これらのことから、引き続き、一斉授業からの脱却を目指し、チーム学習をさらに進め、ICTのより効果的な活用を研究し、令和時代の全員参加型の授業を実践、研究していく。

二つ目は、「子供支援改革」である。「令和四年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、小・中学校における不登校児童生徒数は、二九九、〇四八人であり、前年度から五四、一〇八人増加し、過去最多となった。

本市においても、不登校児童生徒数は増加傾向にあったが、中学校は校内フリースクールF組設置に伴い、明るい兆しが見えてきた。それは、F組の理念が多くの学校で浸透してきたからである。

今後は、学校に来ることができない生徒や、小学校での長期欠席対策にも注力していくことが重要となる。

さらには、特別な配慮を必要とする子供への支援の充実を図り、全ての子供の心理的安全性を担保し、安心して学べる場の保障を目指し、子供たちの大いなる可能性を引き出す、教育活動を推進していく。

三つ目は、「部活動改革」である。部活動は、これまで半世紀にわたり

教師が献身的に取り組み、大きな教育的役割を果たしてきた。その部活動を地域移行することは、大変な困難が予想される。本市では、近隣市町に先駆け、昨年度より、中学校部活動の地域移行に向けて動き出した。昨年、六月には愛知県・愛知県教育委員会が「部活動の地域移行・地域連携の進め方に関するガイドライン」を策定し、生徒の多様なニーズに応じた活動機会の保障と教員の働き方改革の推進の両立に向けた、部活動の地域移行・地域連携の取組を進めることを示した。それらを踏まえ、本市は、「岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方」3段階プラン（岡崎モデル）を定めた。

子供たちの学びの場であり、学びを生かす場であった部活動の意義を残し、岡崎の子供たちが、将来にわたり、スポーツや文化芸術活動に主体的に関わることができるよう、持続発展可能な形の部活動の地域移行を円滑に進めていく。また、小学校の部活動についても、今後の在り方、大会のもち方等について検討していく。

令和六年度は「学び方改革」、「子供支援改革」、「部活動改革」の三点を大きな柱に据え、岡崎の教育を構築すべく、引き続き、挑戦と創造の心を大切に取り組んでいく。そして、未来を拓き、次代を生きる子供たちの資質・能力を育てていきたい。

岡崎の教育 重点努力事項

今、私たちが取り組むべき事柄として以下の三つを挙げる。

- ① 学び方改革
- ・ 一斉授業から脱却し、チーム学習を中心とした、誰ひとり取り残さない

学びを推進する。

- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化による「全ての生徒たちの学ぶ意欲」を高める授業を研究する。
- ・ 「岡崎版GIGAスクール構想」の確実な運用、SINETを活用した未来型授業の実践を推進する。
- ・ 小学二・三年生まで配備拡充した電子黒板を活用した、授業実践の研究を進める。
- ・ プログラミング学習を継続実践し、さらなる充実を図る。

② 子供支援改革

- ・ 「居場所づくり」「絆づくり」の充実を図るとともに、「いのちの教育」を推進し、温かい学校づくりをする。
- ・ 子供の発達を支え、子供の自立を促す生徒支援の視点をもった、教育活動の推進を図る。
- ・ ストップ・ザ・いじめアクションプランのPDCAサイクルを図り、いじめの未然防止と的確な対応をとる。
- ・ 全中学校と小学校三校に設置の校内フリースクールF組、中学校五校に設置した夜間学級S組を充実させ、長期欠席者等、全ての子供の学校生活を保障する。
- ・ 小学二年生まで上げた、市独自三十二人学級実施による、きめ細かな子供支援の充実と検証を行う。
- ・ 外国人児童生徒への指導・支援を充実する。

③ 部活動改革

- ・ 中学校で開始した部活動の地域移行を円滑に展開するとともに、子供たちが成長を実感できる地域ブロック部活動の在り方を検証・推進する。
- ・ 小学校部活動の今後の在り方についての検討をする。



●教育関係機関だより

◆岡崎市総合学習センター

○教育研究所

(1)教育図書室

学習指導案の閲覧、図書資料の貸出し、学芸会等のDVD資料の視聴ができる。

(2)教育アドバイザー

教育に関する様々なことについての相談ができる。

(3)学校運営アドバイザー

学校運営についての相談ができる。

◆教育相談センター

(1)教育相談部門

○そよかぜ相談室

就学支援・特別支援教育、いじめや長期欠席等に関する支援をしている。相談をする場合は、電話予約が必要となる。その後、通所し、臨床心理士や相談員と相談する。また発達障がい専門家(大

学教授等)が巡回相談を行っている。

(2)通所・支援部門

○ハートピア岡崎(竜美・上地)

長期欠席や、その傾向のある子供が学校への復帰や社会的自立を目指して通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。通所については、学校を通して手続きを進める。

○スクールソーシャルワーカー

子供が置かれている環境や、抱えている課題を踏まえ、関係機関との連携・調整や支援を行う。福祉や教育に精通した社会福祉士や教員OBが対応する。

◆日本語初期指導教室

(プレクラス『希望』)

岡崎市内の小中学校に編入学、転入学してくる日本語教育を必要とする児童生徒は増加傾向にある。それに伴い小学生(四年生まで)・中学生を対象とした日本語初期指導教室「プレクラス」を南中学校内に開設している。

◆日本語初期指導教室

(プレクラス『希望』)

○小学校高学年の部

中央審査委員奨励賞

○ポスターの部

優秀賞

○打楽器四重奏

金賞(本選出場)

小森 愛心・芦刈 深月

北中

●表彰

◆全日本学校関係緑化コンクール

○学校環境緑化の部

準特選

◆2024日本室内競技大阪大会

○U16男子60mハードル

7位 葵中 山崎 滯生

◆第11回「算数・数学の自由研究」作品コンクール

○小学校高学年の部

中央審査委員奨励賞

○ポスターの部

優秀賞

○打楽器四重奏

金賞(本選出場)

小森 愛心・芦刈 深月

北中

橋本総一郎

六名小

佳作

小豆坂小 柴田 滉大

◆第69回青少年読書感想文全国コンクール

○中学校の部

入選 竜南中 加藤 留如

◆第48回ゆうちょアイデア貯金箱コンクール

すてきなデザイン・アイデア賞

緑丘小 細野陽菜乃

◆第51回人権を理解する作品コンクール

○標語の部

最優秀賞

秦梨小 薄木 咲梨

奥殿小 葉山 梨愛

福岡中 森田 晴陽

優秀賞

広幡小 加藤美織奈

常磐南小 中西 大志

佳作

広幡小 岡崎 侑

入選

大樹寺小 オレゴンパブロ

小豆坂小 西本 佑

○ポスターの部

優秀賞

小豆坂小 柴田 奏心

◆2023年度中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会

○打楽器四重奏

金賞(本選出場)

小森 愛心・芦刈 深月

北中

焼山 翠久・飯田 虹希
木管八重奏
金賞 矢作中

田畑菜佳佳・山田 愛莉
伴 菜々子・梅村 空菜
三井 花・中根 純菜
横山 葵・深谷 琉翔

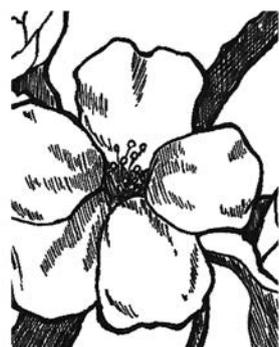
○打楽器五重奏
金賞 竜海中

前田 和香・山川 愛葵
小林 泰遙・橋爪 翠
尾崎 笑鈴

○サクソフォン三重奏
金賞 新香山中

原 優奈・牧野 華
吉尾 芽菜
○アルトサクソフォン独奏
金賞(本選出場)

北中 柴田風羽香
○オーボエ独奏
銀賞 鈴木 杏理



・題 字
 ・タイトルバック 教育長 安藤直哉
 ・各タイトル 細川小 松木大悟
 ・カ ッ トル 南川中 嶋田佑子
 矢作北中 成田絢香

就学時健診 (昭和45年)

写真提供：矢作東小学校



次年度入学する園児が、就学時健康診断で視力検査をしている様子である。園児の横には、高学年の児童が優しく寄り添い、検診の手伝いをしている。

今でも就学時健康診断では、園児の横で手助けをする五年生の児童の姿が見られる。その五年生も、入学する前には同じように検診を受けており、優しくされようれしかつた思い出は、また同じようにしてあげたいという気持ちへとつながっていく。

先輩が先輩に伝え、後輩も成長とともに先輩となり、また教わったことを伝える。異学年交流を通して、子供たちの温かい思いやりの心が受け継がれている。

「友達に思いを伝えたい。」そう願うAの魂が、「にゃあ」という一言に乗り移った。たった一言。でも、彼にとつては大きな一歩。

小さな成長を見逃さない支援により、Aは願いを叶えることができたのだろう。子供の成長をしっかりと見つめられる教師であり続けたい。

とホ

卯目ツ



▲「新入生歓迎会」
新入生歓迎会(矢作北中)

ツバメが本宮山を越えて飛来する。風光る青空を滑り下りる姿は胸がすく。次々に並んで羽を休め、さえずる姿は愛おしい。

新学期、新しい学級に足を踏み入れる子供たちを温かく迎え、その期待に添えていきたい。子供たちの健やかな笑顔が続く、学級づくりを始めよう。



*よみがえる天才6 ガウディ 鳥居 徳敏
ちくまプリマー新書 ¥980

心に残った一文
忍耐とは受動的でなく、たとえ解決が間近に見えなくても、根気よく仕事を続けながら待つことである。

スペインの建築家、アントニオ・ガウディ。彼の遺志を引き継ごうと世界中から集まった専門家達により、没後100年にあたる2026年に、遂にサグラダ・ファミリアは完成しようとしている。

ガウディは、天才と言われる建築家でありながらも、自分に厳しく、地道な努力を積み重ねたことが本書には書かれている。彼は生前、「明日はもっと良いものをつくろう」と毎日言っていたそうである。私たち教師の仕事は、明日、目の前にいる子供をより輝かせることだと、あらためて気付かされる一冊である。

*自分の仕事をつくる 西村 佳哲 ¥760
ちくま文庫
*ものがわかるということ 養老 孟司 ¥1,600
祥伝社
*絵本とは何か 松居 直 ¥950
ちくま文庫 奥殿小 長坂麻奈美